

2005年(平成17年) 12月1日木曜日(毎月1日発行)

1部50円(消費税込・送料別) 発行所/天台宗出版部 発行人/出版室長 工藤 秀和 T520-0113 大津市坂本4-6-2 天台宗務庁内 電話 077-579-0022 (代) Eメール/T-Press@tendai.or.jp

総登山・総授戒 あなたのの中の仏に会いに

極微 ごくみ

新型インフルエンザが日本で大流行した場合、六十四万人の死者が出るという予想が出ています。鳥インフルエンザウイルスは僅かな変異で新型(人型)としても治療薬の備蓄計画を立て、本格的な準備に入りました。それだけ危険が迫ったということなのに、世間は平

宗務総長に濱中光礼師を選出



濱中光礼新宗務総長

今回の宗務総長選挙は、昭和五十二年以来二十八年ぶりに実施されたことに加え、立候補者が現職の西郊良光宗務総長(神奈川教区・円満寺)、宗議会東西二大会派の推薦を受けた濱中光礼前宗議会議員(滋賀教区・金剛輪寺)、村上園童前東海教区宗務所長(東海教区・延命寺)という天台宗主要役職者で争われ、有権者から高い関心が示された。

28年ぶりの選挙戦で決定 三師が立候補し投票率は82%

任期満了に伴う天台宗宗務総長選挙は、十一月二十五日に開票され、濱中光礼師(滋賀教区・金剛輪寺)が、最高得票を得て選出された。任期は四年。今回の投票率は八十二%であった。

今回の選挙は、昭和五十二年以来二十八年ぶりに実施されたことに加え、立候補者が現職の西郊良光宗務総長(神奈川教区・円満寺)、宗議会東西二大会派の推薦を受けた濱中光礼前宗議会議員(滋賀教区・金剛輪寺)、村上園童前東海教区宗務所長(東海教区・延命寺)という天台宗主要役職者で争われ、有権者から高い関心が示された。



28年ぶりとなった開票作業。投票箱が開封された瞬間

話し合いによる選出がベストである点と、宗議会の支持を得た正統性を主張。立候補を表明した三師ともそれぞれにマニフェストを表明し、選挙戦に突入することになった。

今回当選を決めた濱中師は、そのマニフェストで「総本山の護持」と「新事業部の立ち上げ」等を掲げて広く支持を集めた。

忘己利他の実践原点 今年も全国一斉托鉢始まる

天台宗全国一斉托鉢が今年も十二月一日スタートした。今年で、はや、十九回目を迎えたが、昭和六十一年十二月一日、故山田惠徳座主親下が自ら先頭に立ち、人々の間を廻られたのが第一回目である。宗祖伝教大師の「忘己利



他」の精神を実践に移す行動であり、その後、一隅を照らす運動の一環として十二月を「地球救援募金強化月間」と定めて活動を拡げるなど、今では、一宗全体の取り組みとして定着した。また、全国の人々の協力も年を追うごとに

大きなものになっている。この一年を振り返ると、世界各地で大規模の災害が多発、紛争地では、戦闘やテロも激化して、悲しみの声を聞かぬ日は一日としてない年であった。災害地や戦闘地域で悲惨な生活を送る人々、貧しさのために病気や飢餓に苦しむ人々。この地球上では平和で恵まれた生活を営む人々はほんの一握りにすぎない。恵まれているといわれている日本でも、経済的困窮に苦しむ人々、災害から立ち直れず疲弊している人々など、助けを待つ方たちが多数いる。全国一斉托鉢は、ほとけのみ教えを実践する原点なのである。

みたい。組局は、各方面のご意見を充分に承り、挙宗一致の内局を考えている。

濱中新宗務総長の略歴 昭和十四年生れ。六十六歳。

明治大学政治経済学部卒。宗議会議員二期、滋賀教区・金剛輪寺住職。

法の灯 風習について 野口貫秀

日常生活の中で、何気なく行われている習慣やきたりが、日々の生活、感情にまで浸透して、今日に及んでいると思われまふ。中でも、一番身近なものは「六曜」でしょう。先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口の順で、旧暦の一月一日には先勝から始まり、二月一日は次の友引から、三月一日は次の先負からと、順にあてはめられるようになっていきます。仏滅は、最初は「物滅」で、友引は、

先勝と先負の中間にあるので「相討ち」、友に引くので勝負なしということでしたが、のちに物滅が仏滅に変わり、友引も友を引くといって葬儀等を避けるようになったのは、いずれも文字によって縁起をかついだものでしょう。

私は、よく話をするとき「皆さんは、お見舞いに行くときはどの日に行きますか?」と聞くのですが、大体「大安が先勝」と言われます。私は経験からその

日は一番悪い日だと言います。なぜなら、その日に大勢お見舞いに来てくれて、患者はその夜体調をお悪くすると。入院していると退屈なものですから、毎日少人数でお見舞いしてあげることが、一番大切ですよ。

生まれてくるときは何も言わないのに、亡くなったときは、仏滅・友引云々と。現代はすべて七曜で生活しているのだから、あまり気にせずに、毎日が良い日なんですよと言おうと、「そう言われれば、そうだなあ」と言われます。人間って勝手ですよな。

比叡山で修行する僧侶たちの食事は、魚や肉を使わない精進料理です。比叡の童歌にも「山の坊さん 何食て暮らすゆばの付け焼き 定心房(坊)」と歌われている通りです。

定心房とはたくあんのことです。司馬遼太郎さんは「たくあん発明者は、天台宗の総本山・比叡山延暦寺の第十八代座主である元三大師だといわれている」と書いています。

ゆばの付け焼きなどは、現代ではなかなか贅沢なものになっていますが、当時は貴重なたんパク源だったのでしょ

精進料理

鬼手仏心

通算すれば、地球を一周するだけの距離を歩く千日回峰行者の食事も、もちろん精進料理です。ある行者さんから「野菜を食べる時には、油をたくさん使った『野菜炒め』にする。体に油を補給しないと、足がひび割れて歩けなくなる」と聞いたことがあります。

限られた材料を工夫するのも、また大事な修行のひとつだと感じました。

食事を修行にまで高められたのは、比叡山で修行された曹洞宗を開かれた道元禪師です。禪師には「典座教訓」

天台宗出版室長 工藤 秀和

という著書があります。典座とは修行僧たちの料理を作る役目ですから、現代語でいえば「精進料理責任者必携」とでもなりませうか。

「ご飯をたく際には、鍋を自分そのものだと思い、米をとぐときには、みずを自分自身の命そのものと考え」という厳しさで「材料は人間の眼の玉を扱うように大切に扱え」というのですから、なかなか人間には勤まりませ

大根の切れ端はもちろん、水一滴、米一粒でも粗末にするようでは修行僧落第なので



花想 風言

ゲンノショウコはドクダミ、センブリなどと並び、煎じ薬として飲まされた。覚えのある人が多いだろう。

筆者も幼時には、逃げ回つても母親にとり押さえられ、苦い煎じ薬や丸薬をねじ込めようにして飲まされた。霜焼けの手や足をこの煎じ薬に浸した覚えもある。薬用のほかには草木染めの染料として、寺では僧が作業時に着る作務衣のねずみ色の染め出しにも使われた。

十八世紀の初め、儒学者で本草学者の貝原益軒(一六三〇—一七一四)が著した『大和本草』には「陰干しにして粉末とし、湯にて服す、能く痢を治す、赤痢に尤も可也。又煎じても或は細末にしても皆効果あり。云々」とある。

フロロソウ科フロロソウ属で、学名のGentium はギリシヤ語で鶴という意味だ。英名はクレインズ・ビル。果実が鶴のくち

第21回 ゲンノショウコ 福田徳衍 (文・写真)

ちばしに似ていることから名前がついた。八月頃に直径1.5センチほどの六弁の可愛い花びらを開く。花の色は関東地方では白色に薄紫の細い筋があるシロバナが多く、西日本には薄紅色のベニバナ(写真)が多い。

花が終わると、茎の先に果実が出来、熟すと徐々にふくらみ、五枚の果皮が中に入った種をはじき出してまきあがる。その形がお神輿の屋根の形に似ているという連想から「ミコシグサ」という風流な呼び名がある。

服用してすぐ効くことから「ゲンノショウコ」の現証拠。落語の「がまの油」の口上みたいでおもしろい。

うちかがみ げんのしようこの 花を見る 高浜虚子

◆プロフィール
一九三六年東京生まれ。十二歳から二十一歳まで比叡山で小僧生活をして過ごした。元朝日新聞社記者、信越教区新潟部・徳院住職。 俗名福田 徳郎。

全日本仏教会 = 第39回全日本仏教徒会議 = 49年ぶりに滋賀県で開催



開会式で挨拶する里見達人・全日本仏教会理事長

第三十九回全日本仏教徒会議が十一月十六、十七の両日に亘り滋賀県大津市の大津プリンスホテルで開かれ、全日本仏教会(全日仏) 加盟団体から延べ二千九百名の僧侶らが全国から参集、「出会い 縁を生き、伝えるわれら」のテーマの基で議論が交わされた。

本滋賀県で開催されるのは一九五六(昭和三十一年)年の延暦寺大会以来、四十九年振り。

環境に関する分科会では、武村正義・元大蔵大臣、奈倉道隆・四天王寺仏教大学大学院教授らにパネリストを迎え、近年、富栄養化現象やブラックバス・ブルーギルなどの外来種に本来の生態系を侵されている琵琶湖を中心に、地球温暖化などを絡めて「環境」についての討議をおこなった。

「仏教徒による国際貢献」の分科会では、カンボジア、タイ、ラオス、アフガニスタ

十六日は、渡邊進天台座主殿下を始め、多数の教宗派要職者が出席して開会式が行われ、大会会長を務める山本孝圓西教寺貫首の挨拶の後、各分科会に分かれて討論が繰り広げられた。

分科会は▽「いのち 取り巻く環境」▽「仏教徒による国際貢献」▽「仏教にみる男女社会参画について」▽「現代の政治を考える」の四テーマに分かれて開かれ、その他、加盟者団体代表者会議も開催された。

二日目の十七日には大津市のびわ湖ホールで記念式典が開かれ、約二千名が出席。席上「御仏の慈悲と共生の心を現代に生きる人たちに伝え、未来に向け信念に満ちた活動を行っていく」との大会宣言と藤井日光全日仏会長のメッセージが発表された。

また、長年に亘り、福祉を中心に議員活動を続けてきた西川きよし元参議院議員が、「ふくしは我が家から」と題する講演を行った。西川氏は話し方で福祉について語り、会場一杯の聴衆を沸かせてい



講演で熱弁を振るう西川きよし氏

分科会で環境や国際貢献考える

京都国立博物館 2005 国際シンポジウム 仏教美術についての東アジア往還



シンポジウムでは、基調講演に続き、研究発表、パネルディスカッションも開催された。

今秋、天台宗開宗千二百年を記念して「最澄と天台の国宝」特別展が京都国立博物館で開催され、天台の美の世界は多くの来場者を魅了した。では、その「美」はいかなる流れを辿って大陸より渡来し、花開いたのか。

去る十一月十二日、国立京都国際会館において仏教文化・美術の伝播を検証する京都国立博物館2005国際シンポジウム「仏教美術についての東アジア往還」渡海僧たちがもたらしたものの」が開かれた。

渡海僧・轉智とは

基調講演では、王勇(ワン・ヨン)・中国浙江工商大学日本文化研究所長が、ある渡海僧について研究発表を行った。中国南宋文獻に「四朝見聞録」というものがあるが、その中に「日本国の僧・轉智」という記述がある。王勇所長は「轉智」という人物がいかなる僧であるのか、研究している。轉智は勝相寺という寺に「五丈觀音」を建立しており、南宋の皇帝三代が参拝していること、航海時に嵐に会ったが、如意輪觀音の呪を誦し、助かったことから

觀音建立に至ったこと、紙の衣しか着ないので紙衣和尚と呼ばれたことなどがその文獻から分かる。一方、別の文獻では、「西竺僧」とあり、インド僧で南海諸国を巡り、日本へ渡った僧としている。中国には十件の文獻を数えるが、今の段階では、日本僧なのか、インド僧なのか、はっきりしていない。

日本側の文獻はただ一件出てくる。東大寺僧で入宋した齋然の「唐記」の中に傳智(中国では轉智)が西天(イ

ンド)に渡る途中、カンボジア辺りで水にあたって死んだとある。さらに、傳智は太宰府の役人藤原貞包の息子だとしている。また、天台信仰の厚かった呉越の筋で渡海している記述があり、天台僧の可能性も考えられるという。

では空海よりも有名。願い事を託す神様のような存在です。特に歴代皇帝三代が五丈觀音を参拝することなど珍しいことです」と述べている。昨年、西安で発見された墓誌に刻まれていた遺唐留學生「井真成」は、広く話題になったが、「轉智」も今後の研究調査如何では、注目を浴びる可能性がある。

文化・美術は人が運ぶ

文物に関しては基調講演として鄭于澤(チョン・ウ・テク)・韓国・東国大学教授が「高麗時代鏡像」と題し、また、内藤栄・奈良国立博物館工芸考古室長が「鏡像の成立と海外交流」と題する研究発表を行っている。

像が日本にもたらされた事実から、百橋明穂(どのほし・あきお)神戸大学教授が「祖師像の将来とその制作地について」と題して研究発表を行った。「師資相承」の証としての祖師像の将来であること

仏教の散歩道



ひろ さちや

をわの支 題からそい。ち巻多 間かく広る。さ8多 点説幅いろ8と 々視く、てひ経な 様なすは、け「心経 家の教的や口受け若社 仏教の切持著の書般潮

存在するすべての物は神のものであり、人間には所有権がなく使用権しかありません。あるいは人間は神のものを一時的に預かっているのです。そのように説明してもいいでしょう。

「この時計はわたし(の使用)に向けられている」となりま。そういうことを前島誠氏が書いておられます(『春秋』二〇〇二年十二月号)。

存在するすべての物は神のものであり、人間には所有権がなく使用権しかありません。あるいは人間は神のものを一時的に預かっているのです。そのように説明してもいいでしょう。

子どもはみんなほとけの子です。『法華経』はそう説いています。だから親は、子どもをほとけさまから預かっているのです。所有権は仏にあつてわたしたちには所有権がないことをしっかりと銘記する必要があります。

日本側の文獻はただ一件出てくる。東大寺僧で入宋した齋然の「唐記」の中に傳智(中国では轉智)が西天(イ

「昔の人は、子どもはほとけさまから授かるのだと考えていました。この子は観音さまから授かった子だ、とそんなふう

「先生、子どもはほとけさまから授かるのだということはよくわかりました。しかし、授かった以上は、子どもは親のものなんでしょうか？」

子どもはみんなほとけの子です。『法華経』はそう説いています。だから親は、子どもをほとけさまから預かっているのです。所有権は仏にあつてわたしたちには所有権がないことをしっかりと銘記する必要があります。

日本側の文獻はただ一件出てくる。東大寺僧で入宋した齋然の「唐記」の中に傳智(中国では轉智)が西天(イ

所有権は誰にあるのか？

「この時計はわたし(の使用)に向けられている」となりま。そういうことを前島誠氏が書いておられます(『春秋』二〇〇二年十二月号)。

存在するすべての物は神のものであり、人間には所有権がなく使用権しかありません。あるいは人間は神のものを一時的に預かっているのです。そのように説明してもいいでしょう。

「昔の人は、子どもはほとけさまから授かるのだと考えていました。この子は観音さまから授かった子だ、とそんなふう

子どもはみんなほとけの子です。『法華経』はそう説いています。だから親は、子どもをほとけさまから預かっているのです。所有権は仏にあつてわたしたちには所有権がないことをしっかりと銘記する必要があります。

日本側の文獻はただ一件出てくる。東大寺僧で入宋した齋然の「唐記」の中に傳智(中国では轉智)が西天(イ



(カット・伊藤 梓)

A Story in the Tendai

18年間で大般若経600巻を書写する

松本・善昌寺檀徒総代 岩倉邦隆 さん

仏と生きる

Vol.17

大般若経は、今から千三百年以上前に中国の三蔵法師玄奘が十六年の間旅をして天竺（インド）から持ち帰った経典である。さまざまな般若部經典の大全集で、その数は六百巻に至る。現在では天台宗の「大般若転読」に使われる重要な經典である。その大般若六百巻を十八年かけて書写し、善提寺である長野県松本市・善昌寺（大沢祐仁住職）に奉納したのが同寺檀徒総代の岩倉邦隆（七十歳）である。

功德は「足るを知る」こと

大般若経は、正式な名前を「大般若波羅蜜多經」といふ。小品般若、大品般若、金剛般若、文殊般若、秘密般若、理趣般若等々から成り、「般若波羅蜜」とつまり、悟りに至る智慧を説く諸經典を集成したものである。一切の存在はすべて空であるという「色即是空、空即是色」の思想が説かれている。私達が日常的に唱えている般若心経は、大般若経のエッセンス中のエッセンスだ。

二時間で五百字

岩倉は、四十歳を超えた頃から、観音経を書写した。折角だから、西国三十三観音霊場、板東三十三観音霊場、秩父三十四観音霊場の百観音を巡り、一カ寺一カ寺に観音経を納めて朱印をもらおうと決意する。

朱印とは、納経とも呼ばれる。今では朱印帳を寺に持参して規定料金を払い、その寺の印をもらう行為になっているが、本来は、經典を写経して、それを納めた証に証明印をもらうものである。岩倉が目指したのは、「本来」の朱印であった。

そのためには観音経を百巻書写しなくてはならない。数巻を書いたのは、観音寺院を巡り、また書いては次の観音寺院を巡る旅が続いた。「ま、それは、そんなに時間はかからず、八年ぐらいで完結しました」と彼は無造作に三本の朱印軸を開いて見せてくれるのである。そうして五十二歳、いよいよ大般若経六百巻にとりかかることになった。「書道の世界も色々ありまして、もう県展に出すのも卒業していいだろうと。人に

一念、一念と重ねて一生

經典を書写する者には絶大な功德があるとされる。岩倉にとつての功德とは何だったのだろうか。

「初めは、書いてある意味の半分も理解できなかった。書き写し、読み進むうちに『中道を行け』ということを知ることができた。偏つてはいけないということだ。それは我欲を持つてはいかんということです。自分の欲望を出すと中道は歩けません。人は良くなれば、誰しもさらに上を望むものですが、力一杯やれてい

しかし、それにしては十八年は尊い歳月である。「一念、一念と重ねて一生なり」と指摘するのは「葉隠」である。「一念、一念と積み重ねていって、つまりはそれが一生なのだ。このことに思いつけば、ほかにいそがしいこともなく、探し求めることも必要なくなる。しかし、だれしもこのことを忘れて、別に何かあるようにばかり思っただけで探している。この点に気付いた人はいない」。葉隠は武士道を説いたもの

だが、岩倉は春風駭動といった穏やかな性格で、求道のためという尖ったところは少しもない。やはり長い年月を一念、一念と積んでゆくために必要なのは、性急さではなく、穏やかさであったのだらう。

次のステップは、父と母の供養のために父母恩重経を写経することだという。文字通り父母の恩を説いた教典で、大般若経六百巻に比べれば非常に短い經典である。しかし、經典の内容は量の多少ではない。父母恩重経を写経する前に大般若経を通つたのは岩倉にとつて予定通の道りだったのだらう。

「大般若経六百巻にしても、自分一人の力で出来たものではない。本人の邦隆、書雅号の白涛に加えて彼には、もうひとつ名前がある。善昌寺住職の大沢を戒師に得度したときにもらった法名「祐邦」である。今年十月四日、十八年の筆を擱くにあたって、彼は「為先祖代々」と記し、続いて初めて「祐邦」と署名した。奉納を受ける大沢は言う。「本当に真面目一筋な方。有り難い」。書き上がった大般若経六百巻は、現在表装に出ており、裏打ちが終わったあと同寺に納められる。



完成した写経を手にする岩倉さん



岩倉さんが以前に写経した「阿彌陀經」。字数を計算し、中央に「南無阿彌陀佛」の六文字が浮き上がるように書写した

労を日々、大般若経を写すことで乗り切ったともいえるのである。

「リズムのある生活ができ

てよかったですよ。私はお酒も好きだし、仕事柄誘われる機会も多かったんですが、それに惑わされていたら体調を壊していたかもしれない。精魂込めて二時間で書けるのは、五百字までという。込み入った字も、略字ではなく、昔の字体系のまままで書くから虫眼鏡は欠かせなかった。

「雑念が入ると、必ず書き損じる。間違つた箇所は、半ページ切り取って、また書き直しました」。



岩倉さんは、大般若経の最後に、初めて法名の「祐邦」の名を使い、署名した

第2期 續天台宗全書 **新発売**

全十巻 予約購入募集中! **天台宗特価**

◎前半一括前払い **100,000円** (5巻代金・消費税・送料込)

◎各巻前払い **21,630円** (1冊代金・消費税・送料込)

ご購入には上のどちらかをお選び下さい。

入手困難な佛典の画期的翻刻印刷 **天台宗典編纂所編** 春秋社刊行

第2回配本 **宗要光聚坊** 下

天台宗典編纂所 **FAX 077-579-6639**

ぜひ寺院に1セットお備え下さい。

■お問い合わせ 天台宗典編纂所 電話 077-578-5190

第1期全15巻は完結終了しました。有り難うございました。

一隅を照らそう

天台宗務庁 総本山延暦寺御用達

お数珠専門の老舗 **小野珠数店**

〒604-8045 京都市中京区寺町通蛸薬師下丸福寺前町272

電話 075(221)2608番

FAX 075(256)3288番

お便りを下さい

あなたの周りでの出来事、ご感想をお送り下さい。また、取材について「こんな出来事、あんな人々」をお知らせ下さい。

封書、FAX、Eメールで、天台宗出版室まで。連絡先は、題字横です。

FAXは、077-578-4814

コンパス 天台宗顧問 杉谷 義純



皇室のはなし

紀宮様が結婚された。披露宴などは出席者の顔触れを除けば、普通というか、むしろ質素で、良き市民を代表するような爽やかなものだった。当日のテレビほどのチャンネルもこの結婚式に関する報道一色だった。そこで他のニュースはないものとチャンネルを探しているうちに、面白いことを発見した。披露宴では三品の料理が出されたが、そのメニューを伝えるだけでは、視覚に訴えるテレビとしては、活券にかかわると思っただけ、一流シェフをスタジオに呼んでその料理を再現、放映したのである。ところがテレビだから味や香りはわからないが、

皇室典範が改正されたように、見た目はチャンネルによって相当違う印象だった。器や盛りつけ方の違いで料理の様子がこうも変わるのかと、びっくりした次第だ。視聴者に臨場感溢れるニュースを伝えたい報道側の意向は解らないが、ミスリードにつながるかな。料理などはご愛嬌ですが、そうでないものがあることに注意が必要だ。

紀宮様は結婚を機に黒田清子さんとなり、皇籍を離脱して一市民となった。ところが先頃首相の私的諮問機関「皇室典範に関する有識者会議」が『女性皇族は結婚しても皇籍を離脱しない。皇位継承は第一子を優先する』ことを正式に決定したとの報道が、大々的にされた。こうなるはずで、

皇室典範が改正されたような錯覚に陥るから怖い。さらになぜ「私的」諮問機関で「有識者」会議なのか、私的と称して決断力を持ちそうだし、有識者といながら、皇室の伝統文化に詳しい専門家はいないという。すなわち私的な有識者会議の議論であつたらどうなるだろう、とふと思う。

それこそ披露宴の料理再現ではないが、目的を共有していても、その結論が可成り変わる恐れもあり得るのだ。

皇室であろうがなんであろうが、もちろん男女は平等であらねばならない。古今東西男女の出生比率が変

平成十六年度決算などを承認

宗機顧問 菅原榮光・日光輪王寺門跡門主を選任 補充人事

108回 常宗議

去る十一月十四日から、第百八回通常宗議会（奥村慶淳議長）が開会され、平成十六年度通常会計歳入歳出決算をはじめとする各種会計決算議案や平成十七年度通常会計現在進行中である開宗千二百年慶讃大法会費特別会計の補正予算案などが審議され、いずれも承認可決された。

■決算
平成十六年度通常会計の歳入は、十一億千四百八十八万五千七百八十八千八百五十六円、四十七万八千八百五十六円

六円の収入増となった。一方、歳出では、十一億千九百四十七万五千四百三十三円となった。その結果、剰余金は一億三千三百六十三万五千六百八十三円となり、全額が平成十七年度通常会計の準備資金に繰り入れられた。

■補正予算
平成十七年度通常会計では、天台宗務庁の庁舎一部改修に伴う補正が計上された。また、開宗千二百年慶讃大法会費特別会計では、浄土院参

道への灯籠設置などの新規事業発生に伴う補正予算が計上された。

■宗機顧問の補充選任
また、今議会で、鈴木常俊師のご遷化により、欠員となっていた宗機顧問の補充人事案件が提出され、栃木教区日光輪王寺門跡門主・菅原榮光大僧正（81）が、新たに宗機顧問に任命されることになった。任期は前任者の残任期間となる平成二十年十一月十六日まで。

■議院内委員会を設置
議会最終日の本会議では、

創立40周年記念法要を厳修

= 近畿教区仏教青年会 =



近畿教区仏教青年会（高内良輔会長）の創立四十周年記念法要が、晴天に恵まれた十一月五日、聖徳太子生誕の地として知られる同教区第六部の橘寺（奈良県明日香村・高内良正住職）で執り行われた。同法要は、平成十七年の近畿教区天台宗として営まれたもので、当日は高岡保博同教区宗務所長を導師に、青年会員十名の出席により、常行三昧が厳修された。

また別回で、新潟県中越地震や、スマトラ沖大地震など、近年の災害による物故者慰霊のための搭婆供養も営まれた。法要の最後には、同教区寺院婦人会による奉賛のご詠歌と舞踊も披露され、明日香の里に、しばし典雅なひとときがながれていた。

天台トピックス

◎全国宗務所長会臨時総会と宗務所長会議を開催
十一月二十九日から三十日の二日間、全国宗務所長会の臨時総会と、第六十九回宗務所長会議が、天台宗務庁で開催された。

臨時総会では、前回の総会で決定されていた、各教区による浄土院参道への灯籠設置が、大法会の記念事業として位置付けられ、第百八回通常宗議会で補正予算措置が取られたことが報告された。各教区の建設寄付金を大法会の特別会計で受け入れ、工費も同会計から支出される。

宗務所長会議では、平成十七年度下半期の宗務運営について協議された。特に平成十八年四月に宗議会議員の任期満了による選挙が実施されることから、選挙の発令時期や、実際の実務について質疑が集中。

この宗議会議員選挙について

祝新任職任命

【南総・大圓寺】森 祐哲師
【兵庫・大國寺】酒井裕圓師
【群馬・長光寺】千葉照真師

では、選挙区毎に各選挙管理委員会所管で実施されるが、議員の任期を統一する意味から、法人部が主体となって、統一選挙日程を作成することが報告された。

◎一隅教区本部長会議を開催
一隅を照らす運動総本部では、宗務所長会議と併せ、教区本部長会議を開催した。会議では、本年度から実施された組織改編に伴って変更された、実務や会費の収納方法について、各支部に対する周知徹底と、運営面に対する要望が出された。

また、天台宗が進めている機構改革と併せ、同運動の活性化を目指す方法について討議された。

示寂

【南総・永閑寺】醍醐亮敬師
【陸奥・萬寶院】石川仁徳師
【福島・金藏寺】矢吹天空師
【滋賀・宝光寺】柳沢光元師
（平成17年10月21日〜平成17年11月18日 法人部調）

真嶋 康祐師
平成17年11月9日遷化
延暦寺一山乘実院住職
11月13日日本葬儀執行

寺田 豪延師
平成17年11月22日遷化
九州東教区両子寺名誉住職
12月3日日本葬儀執行予定

中里 高正師
平成17年11月22日遷化
北総教区真城院前住職
本葬儀未定

TENDAI BOOKLET

天台宗出版室 新刊のご案内

天台ブックレット 39号
定価 80円（消費税含む）

ともしび 97号
定価 80円（消費税含む）

お求めは 天台宗出版室
TEL 077-579-0022 FAX 077-578-4814 まで

秋晴れの中 落慶式挙行 本堂の改築に併せ寺観を一新

川奈院
神寶



神奈川教区相模第三部の寶珠院(小山宜忍住職)では、去る十一月五日に本堂改築落慶式を執り行った(写真)。

落慶法要は、部内全寺院住職と法類寺院住職の出仕により営まれた。

法要終了後挨拶に立った大久保良允神奈川教区宗務所長は「古いものを壊すことなく、後世に残そうとされた住職と檀信徒の皆さんのお気持ち、大変尊いと思います」と、祝辞を贈った。

天候にも恵まれた同日は、華やかな衣装を身につけた稚児行列も賑やかに行われ、落慶法要に彩りを添えていた。同寺は、かつて上野寛永寺

直末の寺として大いに盛名を誇っていたという。本堂は百八十年前の建立で、天井には狩野派の藤原美信の筆による立派な龍が描かれている。また、内陣の彫刻や絵画など、文化財としての価値を持つものが多数あり、平成十四年五月の本堂解体以来、同寺は、その修復に数年に亘る努力を傾け、この度の落慶に結びつけた。

檀信徒一同は、住職のたゆまぬ努力を讃えると共に、天台宗開宗二百年の勝縁に成就されたことを共に喜び合っていた。

なお、同法要では、鐘樓堂屋根葺き替え、山門改修工事の完成も併せて祝われた。(報告 赤沼徳祐通信員)

与謝蕪村作の所蔵品と七年ぶりに公開

終日檀信徒やファンで賑わう

川奈院
香妙法師

江戸時代の俳人画家・与謝蕪村(一七一六〜一八三三)ゆかりの寺として知られる四国教区妙法寺(香川県丸亀市・大岡真淳住職)で、十一月五日と六日の二日間、所蔵の蕪村画が七年ぶりに一般公開された。地元丸亀市民や檀信徒はもとより蕪村ファンなど、香川県内外から約千二百人が参拝し、終日賑わいをみせた。

蕪村は一七六六(明和三)年から六八年にかけて讃岐香川を訪れており、妙法寺に滞在した際に描いた作品が六點残され同寺は一名「蕪村寺」と言われ、親しまれている。



今回の公開行事では、蕪村の讃岐時代の代表作である四曲一雙の「紙本墨画蘇鉄図屏風」と、掛軸の「紙本墨画竹図」「紙本淡彩寿老人図」(いずれも重文)が公開され、併せて元三大師降魔尊像や元三

市民ボランティアの植樹祭 魂で植える吉備の森づくり 岡山・光珍寺が中心となって

市民ボランティアによる「魂で植える吉備の森づくり」という植樹祭が十一月十二日に岡山市の吉備中山で開かれ、酒井雄哉大阿闍梨も出席多数の参加者と植樹し、共に山に祈り捧げた。



この植樹祭は「本物の森を作ろう」と、森の再生に取り組み宮脇昭横濱国立大学名誉教授の指導のもと、地元市民ボランティアが行ったものだが、この計画を発案したのは岡山教区光珍寺の石渡隆純住職。石渡住職は檀信徒と協力して会場として寺有地を提案し、その他の諸準備も担うなど、開催に向け奔走した。その甲斐あって当日は八百名に上る参加者があり、一万五千本の植樹が行われ、大成功を収めた(写真)。

石渡住職は「本気になれば出来るということを示すことが出来ました。今後ボランティア主体の森づくりに取り組む人々のモデルケースになれば」と語っている。

大師聖像掛軸などの寺宝も特別開帳された。特に大作の蘇鉄図屏風が有名で、庭園には現在も蘇鉄が茂っていることから、蕪村が描いた絵を彷彿とさせ、参詣者もイメージを膨らませながら庭園を觀賞していた。また大岡住職が同寺縁起や与謝蕪村とのエピソード、天台宗開宗二百年などについて法話すると(写真)、参拝者は耳を傾けながら作品に見入っていた。

ら庭園を觀賞していた。また大岡住職が同寺縁起や与謝蕪村とのエピソード、天台宗開宗二百年などについて法話すると(写真)、参拝者は耳を傾けながら作品に見入っていた。

私設学寮
妙法院南叡学寮生募集

京都三十三間堂の本坊、妙法院が開設する宗門の法嗣養成機関で、僧侶として必須の法儀・作務を習得しながら市内大学に通学するものです。

- 募集人数 若干名
- 資格
 - 天台宗法嗣として得度している者
 - 市内大学(学部不問)及び叡山学院に在籍する者(来春4月入学予定者含む)
 - 年齢不問
- 処遇特典
 - 月例の講義(宗学・法儀)
 - 個室・食事供与
 - 通学、研究費補助
 - 学費(一般)の一部補助
 - 平成17年12月10日~18年3月末日
- 募集期間

まず、下記までご連絡下さい。
京都市東山区七条上ル 妙法院門跡・本坊
電話：075(561)1744

特別授戒会執行状況 (11月24日現在)

◆三岐教区	寶光院 11月3日	戒弟310名
◆南総教区	観音教寺 11月6日	戒弟265名
◆群馬教区	龍性寺 11月10日	戒弟125名
◆群馬教区	西光寺 11月11日	戒弟264名
◆東海教区	密蔵院 11月12日	戒弟250名
◆滋賀教区	東南寺 11月20日	戒弟255名
◆東海教区	高田寺 11月23日	戒弟209名

特別授戒会の状況と予定は、ホームページ <http://www.tendai.or.jp/> からご覧頂くことができます。

デスクから

二十八年ぶりの宗務総長選挙で、立候補届出から開票までの二十五日間、選挙戦一色に染まる。今回、投票率は低いのは、という予想に反して八十二%という高投票率となった。午後一時に開票作業が始まり、当選者がほぼ確定したが、夕方六時頃、中央選挙管理委員会によって各候補の投票数は非公開とされている。許可を得て、初めて選挙開票の取材に入る。開票がはじまると、立会人が一斉に立ち上がる。票は、各候補者の名が記された箱に次々と分け入れられる。天台宗の最高責任者が決定する瞬間である。胸が詰まるような緊張が開票場を支配する。独特の雰囲気である。四年に一度、任期満了によって天台宗の役員人事が変わる。今年十二月には、座主親下による任命式が行われ、新しい内局が誕生する。また、濱中新総長の公約のひとつに「新事業部の立ち上げ」がある。新しい時代の要請であろう。

私の法句経

天台宗宗機顧問 藤 光賢

(1)

ありとある悪を作さずありとある善きことば身をもつて行いおのれのころをきよめんこそ諸仏のみ教えなり

第十四章 「仏陀」

より

編集部の求めに応じて、これから数回、法句経について語りたいと思います。法句経は、お釈迦様が説かれたお経の中でも特に「真理の言葉」「まことの教え」という名前が呼ばれます。原典は、パーリ語訳、サンスクリット語訳、漢訳がありますが、パーリ語のものが一番まとまっています。パーリ語では「ダンマ・パダ」と呼ばれます。ダンマとはサンスクリット語のダルマ、すなわち法のこと、パダとは、言葉の意味です。ですから、日本語では法句経と名付けられた

悪いことをするな 善いことをせよ

のです。現存する經典の中では、お釈迦様が実際に説かれた教えに最も近いといわれ、「東方のバイブル」とも称されています。その特徴は、きわめて平易な言葉の中に、深遠な真理を含んでいることです。法句経は、全部で二十六

ら、法句経の中から一番有名な句を引きました。「諸悪莫作、諸善奉行、自淨其意、是諸仏教」。七仏が、共に受持した戒めという意味で、七仏通戒偈といわれる句です。七仏とは、お釈迦様が悟りを開かれて仏様になる以前におられた六仏に、お

だ」と尋ねたところ、和尚は即座にこの句を示しました。白樂天が「そんなことは三歳の子どもだって知っている」といえば、和尚は「三歳の子どもも知っているが、八十の老人だつて実践できていない」と大喝をくらわしたのです。それは、その通りですが、隠されている眼目は「身をもつて行い」という所にあります。仏教では、体を使ってやってみなくてはならないことが多々あります。頭の中で考えているだけではダメなのです。それ以上に重要なのは、おのれのころをきよめる」といふ部分です。なぜ悪いことをせず、善いことをするのか。それは、この自分自身の心を清めるため、にでありませう。そのことよって、人は更に仏様に近づけるのです。

雪が溶けて川となって

中尊寺貫首 千田孝信

(9)

私が変われた一つの要因は素敵な教師たちとの出会いだ。いままで私が見てきた高校の教師とは全く違う人間に見えたのだ。

朝から晩まで生徒のことで頭がいっぱいで走り回っている。嬉し泣き、ときには大声で怒鳴つてみたり…。本気で生徒と向き合つて、心から生徒を愛している。教師たちが間違つたことは素直に頭を下げて謝る。生徒に裏切られても、それでも諦めることもせず

私を変えた教師と仲間たち

不良だった高校卒の手記

思つてくれる教師たちに私は初めて出会つた。そんな教師と真正面から対立し、かわつていくなかで、私自身が変わりたいと思つてきたのだ。この人たちがなら、この先生たちなら信頼できる。

う一度信じてくれる。こんなにも生徒のことを真剣にしても間違つたことをしても、そして私には大切な宝物ができた。仲間だつた。面倒くさいこと、苦しむこと、悩むことを嫌つて逃げたばかりの私を変えてくれた。もう一つの要因は、この仲間だつた。皆それぞれに心に傷を抱えていたり、知られたいくない過去をもつていたり…。それでも、失敗をしても間違つたことをしても、そ

合いがこんなに魅力的なものという。互いに大切に思える気持ち。数え上げたらきりが無い。そして何よりも、人と人との絆の強さ。絆の深さ。自分より生徒が大切で大好きで、泥だらけになりながら生徒と向き合おうとしている。自分だつて心も身体もヘトヘトに疲れているはずなのに、苦しんでいる生徒がいれば夜中でも生徒のもとに駆けつける。私自身何回もそんな熱血教師に救われてきた。

本心に素敵な教師だと思つた。こんな教師に私もなりたい！私はいま、その夢に向つての一步一歩を歩いている。悩み、苦しみ迷いながらも、たくさんの宝物を両手に抱えながら、大好きな先生のように、私もなりたい。

素晴らしき言葉たち

Wonderful Words

「仕事師列伝」 新藤兼人著 同時代ライブラリー・岩波書店

現代は、効率と予測で成り立っています。「そんなことをして、何になるのか」という問いかけに「やってみなければわかりません」と答えれば「無責任なことを言うな」と言われるでしょう。あらかじめ予測可能なことが正しいことで、予測不可能なことは悪なのです。しかし、私たちの人生でも「想定内でない」事態はしばしば出現します。就職でも、結婚でも「やってみなければわからない」ことだらけです。今の若者が「自分に合った仕事がない」などと言うのは、どうも予測をしすぎて、危ないことを

避けるための言い訳のように思われます。最終的な基準は「後悔するか」「後悔しない」かでしょう。自分の判断で、成功すれば言うまでもないのですが、失敗し、世間的な見方をすれば負け組になつたとしても、チャレンジしたことは、財産として残ります。案外、安全な道ばかり選んで生きた人の方が後悔が深いのかも知れませぬ。初めて南極大陸を果した日本南極観測隊の西堀栄三郎隊長は言っています。「とにかく、やってみなければ、やる前から諦める奴は一番つまらん人間だ」。

天台山は平成十八年に開宗二百年の記念の年を迎えます



あなたのの中の仏に会いに

〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2 天台宗務庁
天台宗開宗1200年慶讃大法会事務局
TEL 077-579-0022 FAX 077-578-4814
または、最寄りの天台宗寺院へ